



2024年度の主な活動

久しぶりのNEWSLETTERの発行です。
2024年度の主な活動についてご報告します

1) 国登録有形文化財への申請支援等

■ N家住宅：登録のための実測調査

横浜市西部に佇むN家住宅では、国登録有形文化財への登録申請のための支援を進めています。建物の実測調査を行い、写真撮影を終え所見や図面作成、申請書のとりまとめを行い、文化庁への申請を準備中です。

この住宅は、明治22年頃に新築されたと推定される貴重な建築物で、所有者ご家族が「文化財として保存しながら、これからも住み続けたい」という強い思いを持たれていたことがきっかけで登録に向けた活動が始まりました。

N家住宅のように「保存しながら住み続ける」という想いを支える制度の整備に向けた、より多くの歴史的建造物での活用の実績とそれらの記録、情報の保存が期待されます。



■ 逗子久木S邸：歴史を伝える建築群

湘南の別荘地として名高い逗子の久木地区には、戦争の影を伝える建築群があります。かつて旧日本陸軍の池子弾薬庫建設に伴い、強制移転を強いられた旧柏原村の住宅13棟のうち、6棟が今も残されているのです。この建築群は地域の人々にも殆ど知られていない逗子のもうひとつの貴重な景観です。

その中でもS邸は、寄棟造の瓦屋根を持つ格式ある佇まいが特徴です。大谷石と赤目垣の生垣に囲まれ、箕の甲付入母屋造の玄関と、隅軒先の優雅な反りが目を引きまします。

私たちは2020年から3年をかけて逗子市内の歴史的建築物の悉皆調査を行い、20年前の調査でリストアップされた90棟のうち54%の現存を確認しました。その中でS邸の所有者とも対話を重ね、この建物が語る歴史的価値を丁寧に伝えてきました。2023年の湘南邸園文化祭では、S邸の見学会と市内調査の報告会を開催し、所有者自らが強制移転の歴史を調査し発表されたことがきっかけで、建物継承への想いが強まり、登録文化財申請に至りました。さらに、かつて強制移転を経験した地域の方々との交流が生まれ、次世代へと語り継がれつつあると伺っています。KHM協会では、2025年の登録申請を目指し、昨年11月と今年2月に実測調査を実施しました。この活動が、地域の記憶を守り、建物を未来へ繋ぐ新たな一歩となることを願っています。



■ 埼玉県羽生市 T 家住宅「離れ」：保存への挑戦



埼玉県羽生市の中心部に佇むT家住宅「離れ」は、かつて染物業で栄えた歴史を今に伝える貴重な建物です。昭和27年に染物店の接客用として建築され、書院や彫刻欄間、組子欄間など、優れた伝統技術が随所に施されています。しかし、時代の変遷と共に染物業は衰退し、建物は24年間空き家のままとなっていました。2022年春に会員が、所有者の妹さんから「祖父の建物を解体せずに残したい」と相談を受け保存活動が始まりました。

雨漏りのひどい状態ではありましたが、建物の持つ歴史的価値に強く心を打たれ、文化財への登録を目指すことを決意。市職員や文化庁の視察を経て、所有者の意識も次第に変わり、解体回避へ向けた取り組みが進んでいます。

KHM協会では、県外の建物ではありますが、所有者らの熱意を受け、昨年有志による現況実測と劣化調査を行い、修繕の優先順位等を今後もアドバイスする予定です。

その一方で、関係者が「一般社団法人とみ田や」を設立し、クラウドファンディングで資金を集めながらDIY修復を進めています。2階の雨漏り修繕も完了し、駄菓子屋やスタジオ、レンタルスペースとしての活用が始まりました。2025年3月には、地域の特産である青縞や地酒をテーマに、藍染体験や工場見学を含めた地域イベントを開催予定です。これからも富田家住宅が「歴史を紡ぎ、地域に開かれた空間」として生まれ変わる日を目指し、保存活動を続けていきます。



■ 戸塚 I 医院：文化財登録への歩み

横浜市戸塚区にある I 医院は、大正14年築の診療所、昭和5年築の洋館付き住宅、昭和14年築の門塀からなる歴史的建造物です。平成22年には横浜市の助成を受けて、洋館の天然スレート葺き替えや外部建具の修繕が行われ、建物の保全が進められました。その後、5代目院長が就任、敷地活用計画を立案、住宅、保育園、共同住宅の増築を経て、診療所と住宅の長期的な維持管理の方針が整い、文化財登録を目指すことになりました。

創建時の原型をよく残し地域のランドマークとして親しまれ登録有形文化財に相応しい歴史的な建物です。近代和風建築の絶頂期における伝統的工法と当時最新の技術が融合した和洋館は、格調高く非常によく造り込まれ、住まい手に愛されながら大切に維持されています。登録手続きに向け、昨年9月には設計図の再確認と建物内外の現況調査を実施。その際、会員有志の手で長年の汚れが蓄積していた門柱と塀の高圧水洗浄を行い、美しい意匠が蘇りました。

今般建物内外の見学会をKHM協会会員の知見と研鑽のために実施し、この先もこの建物の継承に携わるために、文化財登録の申請を受託しました。私たちの活動が地域文化継承に貢献できることを期待します。



2) 地域の景観をつくる歴史的な建物の存在調査 秦野プロジェクト

2000年に作成された神奈川県近代和風建築調査報告書では秦野市内に歴史的価値のある建物が約300棟存在していましたが、KHM協会が2021年より存在調査を行ったところ、この20年で約6割の建物が失われていました。その調査概要の資料展示を2024年9月に開催された秦野市の「秦野たばこ資料展」にて行いました。また、現在も存在調査を継続して行っています。

本町四ツ角周辺

秦野の商店街。関東大震災後の復興整備により道路拡幅がなされ、沿道に洋風建築や蔵が今も多く遺る。



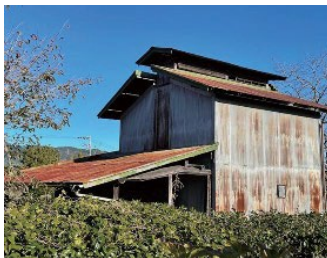
乳牛通り沿い

水無川の扇端部、豊富な湧水があり、かつての農村の蔵や商店が並ぶ。玉石を積んだ石垣も特徴的である。



渋沢、三廻部地区

水無川の扇央部、特徴的な煙草乾燥室が今も点在する景観。竹材を小割にした木賊張りが施された納屋が遺る。



蓑毛地区

大日堂などの社寺仏閣や大山詣の御師の家などが大山詣の登山口にある。山岳信仰の拠点としての建物群が遺る。



■ 煙草乾燥室

当時の専売局からの指導を受け、補助金を建築資金とした典型的な建築。煙草乾燥室は10年程前の市の調査では約200棟が確認されましたが、農地の宅地化等に伴い多くが失われています。



秦野たばこ資料展



かながわヘリテージマネージャー協会



※展示内容の詳細はQRコードから各HPにてご覧ください。

3) スキルアップのための見学会

■ 横浜市の洋館付き住宅見学会 9/26

国登録有形文化財に向けて準備中の貴重な建物を特別に見学する機会を頂きました。現役で医院として活躍中の「大正14年築の診療所」と「昭和5年築の洋館付き住宅」、どちらも見所ばかりで講師の解説が止まりません。

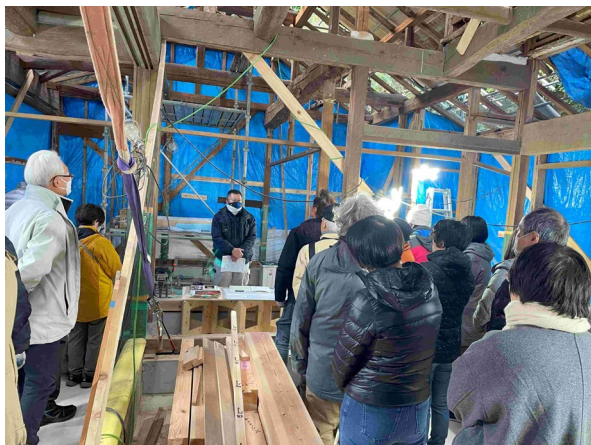
洋館付き住宅は一步中に入ると格調高い造り。天井、欄間、障子の精微な意匠や、住宅では珍しい精緻な上級な造りの書院など、今では滅多に見ることができない貴重な職人の技を、専門用語と共に学びました。

街道沿いに建つ「昭和14年築の門塀」は、塀に貼られていたポスターから築年数を割り出したというお話に感心しました。

■ 鎌倉旧Y別邸見学会 12/14

築90年の歴史的建造物の改修現場を見せて頂く貴重な見学会。当日は素屋根掛け、ベタ基礎まで完了した段階でした。スケルトンになった軸組みを見ながら耐震補強の方法や、工夫された基礎のお話、苦労して探した金物なども紹介して頂きました。

実際の改修現場で実物を見ながらの見学会は、非常に実践的で貴重な機会となりました。



4) KHM 養成講座 第2期

■ かながわヘリテージマネージャー養成講座(24～25年度)が始まりました！ 9/14

会場は藤沢商工会館ミナパーク 303 オープニング。大野先生、藤岡先生が駆けつけて下さいました。加部会長の挨拶の後、第1回講師は戸田啓太さん（湘南邸園文化祭連絡協議会事務局）『湘南の邸園文化』と題し、19年目を迎えた邸園文化祭を題材に、相模湾沿岸一帯の歴史と近代和風建築、洋風建築の維持保存とイベント内容を熱く解説頂きました。

村島正章さん（神奈川県建築士会）には 歴史的建造物に係る法規的観点から建築基準法のその他条例、歴史的建造物活用のための基準法の敵用除外を中心に構造補強、火災対応など歴史的建造物を保全活用し、安全性向上や維持を図るための詳細をテンポよく解説頂きました。将来に継承する事を目的にヘリテージマネージャーに期待する事は大きいと感じます。



■ 初めての演習！「神奈川のまちなみ調査」と題し、秦野市で講義とまち歩きを開催 10/5

登録有形文化財『五十嵐商店』の蔵が会場。

講師の黒田協子さんからは、秦野市悉皆調査から得た景観の成り立ちや今も残る商店など歴史的建造物について目視による外観調査の方法を学び、加部佳治さんからは、かつて栄えた煙草の名産地秦野の記憶を伝える歴史的建物が失われている現状が解説され、県道705号線沿い本町四ツ角周辺および乳牛通り沿いを歩き、ヘリテージマネージャーとして外観の特徴を記録する演習について説明がありました。その後調査に出発。受講生にとり外観目視で建物を選択し報告書提出は、2025/2に発表する『私が見つけた歴史的建造物』の導入となる経験だったと思います。



■ モーガン邸と藤沢宿 活用の事例を学ぶ 11/9



上：活用の事例を学ぶ演習風景
左：「まちなかアート」の展示

『旧モーガン邸を守る会』の佐藤里紗さんに、邸の歴史、魅力や保存の苦労、今後の展望を、『藤沢今昔まちなかアート実行委員会』の伊東直昭さんには藤沢宿周辺をめぐりながら歴史的建造物とアートが融合した活用事例を丁寧に解説して頂きました。国登録有形文化財の建物などの活用事例をを実際に目で見て歩き、受講生には今後の活動の参考になると思います。



■ 古民家の 実測調査演習 12/7

横浜国立大学の犬野敏先生を講師に迎え、茅葺屋根の古民家『花三郎の家』で実測調査の基礎を学びました。18世紀中期の建物。古材を尊重しつつ復原修理が行われ移築され、個人所有として維持保存されている貴重な遺構での実習。受講生各々が実測演習後、各班に分かれ、民家の維持保存と活用方法を発表し、講評を頂きました。受講生にとり、貴重な場所で実りある経験になったと感じます。



役員会議事の概要

奇数月に定例役員会を開催、10/10に臨時役員会を開催しました

役員会では地域プロジェクトや新たな相談への対応等の他、2024年度会員総会で決議した法人化について、新たに立ち上げた法人化チームを中心に準備を進めて、役員会で検討を重ねてきました。これについては近々に説明会を開催し、会員の皆さんに進捗状況を共有させていただく予定です。

- | | |
|-------|---|
| 7/9 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 新任役員の挨拶と2024年度活動計画の詳細と役割分担の確認 ・ 埼玉県羽生市のT家について支援することを承認 ・ R 6 年度、神奈川県、建築士会との三者協定に基づく連携と協働に関する確認書 |
| 9/10 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 法人化についての検討（定期総会での決議による） ・ 国登録有形文化財の旧東伏見宮別邸継承への協会としての関わり方の検討 ・ 秦野市タバコ祭りでの展示内容の確認 |
| 10/10 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 臨時役員会にて法人化についての方針を決議 |
| 11/12 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 法人の定款案、役員案の検討と諸手続きの確認と検討 |
| 1/14 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 一般社団法人化を年度内に申請することを検討し承認 ・ 2025年度、2026年度の活動計画案の検討 ・ 実測調査演習チームの選任、NEWSLETTER等情報発信方針の承認 |

■ 会費納入のお願い：

KHM協会の活動は、会員の会費によって成り立っています。

正会員：¥7,000 準会員：¥4,000

2024年度会費未納の方は、3月末までに納入ください。
どうぞよろしくお願いいたします。

・ 郵便局から振り込む場合

口座名：かながわヘリテージマネージャー協会
記号10930 番号11512001

・ 他の金融機関から振り込む場合

ゆうちょ銀行 ○九八支店（セキョウカチン）
普通預金口座1151200